

事例 2

社会福祉法人 四日市福祉会 (業務内容：障がい者福祉サービス)

雇用形態の違うスタッフが一体となって 楽しく働く組織を作る

障がい者実雇用率

現在

7.96

%

3年後目標

8.50

%

課題

働き方の違いから生じる障がい者雇用への意識のズレ

- ▶ 就労継続支援A型で働いていた利用者さんを社員さんに転向した際に同じ職場で働くスタッフとの間で、今までと違う意識の違いが生じてしまった
- ▶ どうしたら一体感が生まれるのか、支え合える環境が作れるのか

取組

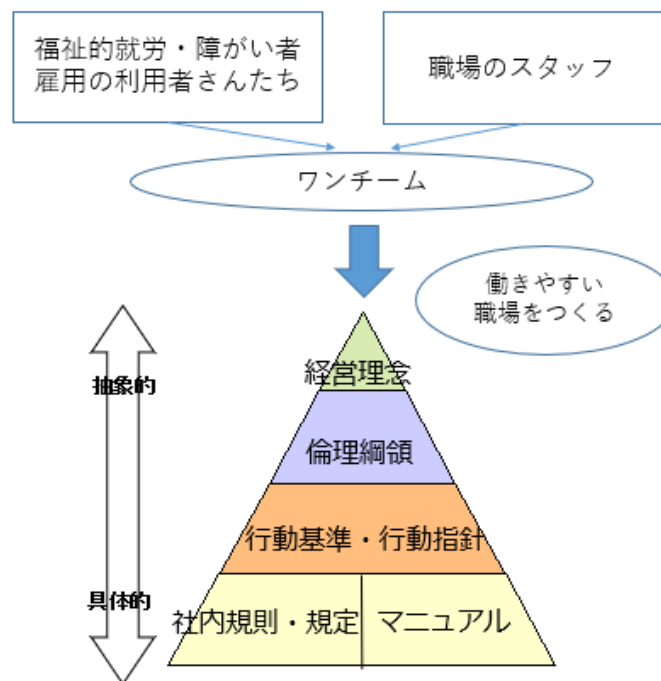
マインドの醸成だけでなくマネジメントの強化をする

- ▶ 法人内の全ての職員が目指す共通目標を確認する
- ▶ それぞれの作業適性や得意分野を見極め、役割を明確化する
- ▶ 意識の向上、定着を図るため定期的な面談と評価を行う

展望

共通の目的に向かってワンチームで働く組織へ

- ▶ 障がい福祉サービス事業所として、最適な業務の在り方を確立する
- ▶ 一人ひとりが役割を意識し全うしながら、更なる成長を目指す
- ▶ お互いに意識を高め合い、支え合える環境を構築する



事業に参加しての感想

尾上さん(地域支援部)

障がい者雇用を進めていく上で、今回参加された企業の方のお話を伺えたことは、大変貴重な機会となりました。多様性が求められている社会の中で、「一人ひとりが働きやすい環境とは何か」を考えた時に、それは各々がやりがいを持って働けることであり、そのために必要な作業適性を見極め、新たな作業への挑戦や職域の開発を進めていくことの重要性を感じました。

今後も、研修等の機会を活用しながら、障がい者雇用への意識、理解を少しずつでも深めていけるよう取り組んでいきたいと思ひます。

作業風景 (左:レジ接客、右:タイヤ空気圧点検)

